

# 千歳基地航空祭を支援

千歳基地航空祭が八月五日、雨天の中、ブルーインパルス、展示中止、悪天候に飛行中止、中止にも関わらず、全国各地、よりの多く集まり、観衆が上空を飛行し、鑑賞を楽しまない、それには、前八日夜祭日



のはい、んだ。鑑示り観よ全か中る悪展  
前八、それだ。賞の、衆、り道わ止機天示  
夜月千鷲に、を、の、が、多、らに動候中  
祭四鷲に、を、の、航、上、集、く、も、飛、に、止、  
日会伴し機展まの国、か、行、よ、



航空祭受付風景

親会及び八月五日の基地祝賀会受付、エスコート等を森田副会長以下延べ二十五名の会員が支援した。



(第7号) 発行 千鷲会

平成二十四年度 定期総会・懇親会

定期総会が六月八日ANAクラウンプラザホテル千歳において、五十名の会員が出席し、平成二十三年度収支決算報告及び新年度の事業計画について全会一致で承認された。その後の懇親会で

千鷲会創設三〇周年おめでとうございます。そして、これまでに会の運営に携わってこられた会長、役員の方々と協力された会員の皆様に、心より敬意を表します。私は、昭和四十四年に上野から後払証で急行と連絡船を乗り継ぎ、二十三時間かけて生まれて初めて北海道に渡り、千歳駅前食堂で制服に着替えて千歳基地に入った事を、昨日のように覚えております。操縦要員の部隊実習生として、F104を装備する二〇一飛行隊に配属されたのですが、当時の飛行隊のメンバーは、後に空幕長や方面隊司令官となられた、そうそうたる顔ぶれであり、二〇三飛行隊には朝倉会長も在籍

## 千鷲会創設三〇周年に寄せて

千鷲会 岩井 義則

されておりました。この時から千歳基地との縁が始まり、F15が千歳基地に配備されてすぐ私も二〇三飛行隊に配置され、千歳基地との関係がさらに深くなりました。千歳は、昔も今も空自作戦部隊の中核であり、たとえ情勢が我が国で基地を直接支援する事が任務ではないかと思うのです。普段は会の懇親会で酒に酔い昔話に興じていても、いざ非常時は一致団結して、基地を支援する組織があるという事が有形、無形の第二の戦力になると考えています。おわりに、基地はその所在する自治体と密接な関係があり、自治体の発展は基地にとっても大切です。千歳市の特徴は種々ありますが、私は全国屈指の飲み屋の数でないと感じております。このため経済的、体力的には、昔に及びませんが、老体に鞭打ち、花街の活性化に微力ながら貢献していきたいと思っています。



は会員百三十六名(正会員九十六名、賛助会員十三名、現役二十七名)が参加し、懐かしい昔話に時を忘れ、楽しいひと時を過ごした。

## 部隊研修

千鷲会の部隊研修を七月五日、会員三



十七名が参加して、実戦部隊の装備品等の見学を実施した。研修内容は、飛行群のF15戦闘機見学の、救難隊の救難ヘリ見学の、特別航空輸送隊の政府専用機見学、金古基地司令講話による航空自衛隊の現状と千歳基地の近況及び部隊喫食でした。部隊喫食では、現役時代を思い出しカントリーアイスに舌鼓を打った。(時期未定)次回(時期未定)は、家族を含めた研修を実施したい。



特輸隊 (政府専用機)



部隊喫食 (有料)



飛行群 (F15戦闘機)

長年にわたって活躍したF4ファントムの展示セレモニーが八月四日、基地内エアパークでおこなわれた。

千鷲会から元三〇二飛行隊の隊員二〇



展示セレモニー  
尾白鷲F-4EJ (345号機)

名余りが参加し、古基地司令の挨拶に続き、来賓として招かれた朝倉会長が挨拶を行った後、長年に渡り北の空の守りについでた雄姿をバックに記念撮影した。会員はセレモニー後も、いつまでも機体に触れて懐かしんでいた。

### 慰霊碑「雄魂」の樹木剪定

毎年、基地航空祭前に実施している雄魂碑周辺の樹木剪定作業を七月二十六日午前中、会長以下十三名が汗を流した。作業中、樹木の中にメバチに突然襲撃されたものの、その後処置(衛生隊の応急処置後、病院に受診)が素早く、大事には至らず、一安心。夕方から夜勤についてそうです。

次回は、作業前に「蜂の巣」の点検から始めます。



### 地区幹事紹介

千鷲会だより等を配達している広域地区幹事さんを紹介いたします。

- 鉄東地区 古川 捷喜
- 鉄北地区 坪川 勝比古
- 北桜地区 鶴 友助
- 中心街地区 井越 忠男
- 向陽台地区 谷田 秀明(正)
- 秋山 重穂(副)
- 近郊・道外 白木 敏滋

### 空自OB連絡会が発足

空自OBとしての関心事について情報を共有し、各地のOB会が必要に応じて個別に又は協力して対応できる態勢をとること、情報交換を通じて空自OBとしての絆を深めることを目的として連絡会を立ち上げるべく数年にわたり検討が続けられてきた。このほど七月二十日に当会を含む全国の二十五個団体、七千五百名をもって「航空自衛隊退職者団体連絡会」が発足した。

### 創設30周年記念式典

千鷲会創設三〇周年記念式典  
▽日時 十月二十日(土) 午後六時から  
▽会場 ベルクラシックリアン  
▽内容 アトラクシヨン等を予定  
以上のとおり盛大に三〇周年の式典を企画しております。

見習いが半年ほど過ぎたころ、米軍もこの場所から引き揚げ我々自衛官が業務を行っていました。COCからWOC(団戦闘指揮所)に引き継がれたのである。

二空団の飛行訓練も順調に実施され、その後第三飛行隊(当時は一個飛行隊)のF86F(昼間戦闘機)により、当初は二時間の四時間の短い待機による日本最初のアラート任務が開始された。昭和三十三年(一九五八年)四月二十八日である。

二空団創設期の想い出  
二空団OB 影山 廣  
二十七年十月に改良舗装工事が始まり、わずか一年余りで完成。翌年十一月二十日、道内初のアスファルト舗装道路として開通、呼び名の由来に「弾丸のようにスピードが出せるから」、「急ピッチで工事が進められたから」、「米軍が駐留していたころ弾丸を運んでいたから」などさまざまな説がある。西部劇に出てくるような飲食店が立ち並び、スタンダー(現在のスナック)がひしめき合い、日暮れとともに華やかなネオンに彩られるまち、それが今の清水町である。あれから半世紀が過ぎ、千歳は自衛隊のまち、空港のまちともなっている。

事務所や内務班はもとより、団司令室や司令部の事務所はすべて米軍が進駐時に建設したカマボコ兵舎で、夏は暑く冬は石炭ストーブのため空気が乾燥し喉を痛めました。そのため士間には常に水をまき乾燥防止に努めておりました。また、内務班編成も現在の部隊別ではなく、すべての隊員が起居を共にし、起床後は食事を済ませそれぞれの職場へ向かいました。食事は外米が入り、食欲旺盛な我々にとっては量が少なく空腹の連続でありました。食堂には箸がないため個々に箸やフォークを携行し、

千歳郡千歳町から千歳市となり人口も増加し市内は米軍人と制服を着た陸自隊員や我々空自隊員が目立つようになりました。市内の道路は殆どがでこぼこの砂利道で、唯一舗装されていたのは現在の「ホテルグランテラス千歳」辺りから札幌へ向かう一本のコンクリート舗装の道路だけでした。当時千歳の人々はそれを「弾丸道路」と呼んでいました。

三回にわたり投稿して頂いた影山廣会員は現在、千歳国際交流協会加盟団体千歳ボランティア通訳クラブ会長として、千歳を拠点に外国人観光客等の通訳ボランティアとして活躍中です。

おります。全会員には、案内状を配布(送付)いたします。また、創設三〇周年記念品を贈ります。会員参加の呼びかけをお願いいたします。

### 各紹介

- 新入会員 山中 誠(特輸隊)
- 里 直造(援護室)
- 守谷 敏弘(幹部学校)
- 斉藤 宏(特輸隊)
- 高橋 達治(3高群)
- 工藤 和夫(特輸隊)
- 物故会員 小川 良治(富 丘)
- 古賀大八郎(日の出)

### 事務局からのお知らせ

投稿先及び問合せ先  
〒(42)0295  
国井(28)4302  
芦田(26)4053